

洛西山ノ内 山王神社 由緒略記



主要祭典神事

歳旦祭	一月一日
若菜祭	一月七日
古神符焼納祭	一月七日
成人祭	一月十五日
メなわ焼納祭	一月十五日
節分祭	節分の日
祈年祭	春分の日
祖霊社祭	春分の日
水無月夏越祭	六月三十日
例祭	十月第三日曜日
神輿渡御祭	十月第三日曜日
火焚祭	十月二十三日
新嘗祭	十月二十三日
大祓式	十二月二十日
除夜祭	十二月三十日
月次祭	毎月一日



山王神社々務所

〒615-0092 京都市右京区山ノ内宮脇町五番地 電話 075-821-0934
 ▶京福電鉄・京都バス・市バス「山ノ内」下車 北へ

写真協力/日本カラーフォトスタジオ株式会社
 印刷/森田美術印刷



旧山ノ内村絵図

山王神社 若宮社 赤山社の旧跡地

山王神社

御祭神
大山咋神
玉依姫神
大己貴神



山ノ内は往時比叡山天台宗延暦寺の山門領内で約九百餘年前此地に良真天台座主の西の京禅房があり普賢寺と号す立派な堂宇僧坊があつた。故に山ノ内と称す。
当社の御創建は不詳ながら比叡山天台宗の守護神と崇める坂本日吉山王大神を勧請した古いお社である。
御祭神の大山咋神・玉依姫神は御夫婦神で大己貴神は大国主命の別の御名であり酒造り施薬治病縁結び福寿の神として慕われ信仰されている。
御神殿には平安末期作の特色をもつ木造りの神像参躰をお祀りしている。
現在の御神殿は平成三年の新築で旧神殿は文化十三年の建造、拝殿は嘉永元年の建物である。
昭和六十三年八月唐破風向拝所の新築に際し寛政三年銘記の礎石が発見された。



若宮神社

御祭神 湍津姫神 白山姫神

湍津姫神は山王神社祭神大己貴神の妃神であり美の神として信仰され白山姫神は伊弉諾尊・伊弉册尊二柱の神の



総称であり縁結びの祖神と仰がれている。当社は元瀬戸畑町に奉祀してあつたが明治十二年にこの境内にお遷しした。

赤山神社

御祭神 泰山府君

赤山明神は天台宗慈覚大師が中国に渡られた時、山東省赤山にある山神、福寿の神泰山府君に祈念せられ無事帰



国され、後に天台宗の守護神方除けの神として比叡山の西に勧請されたのに始まり山王大神を当地に勧請の際赤山明神をもお迎えしお祀りしたものである。当社は元赤山町に奉祀してあつたが明治十二年にこの境内にお遷しした。

お福稻荷神社

御祭神 稻荷大神

古老の説に依れば境内の大樹の根元に白の糞笠が落ちていたのを見て拾おうとしたが、白蛇の蜷局であったので恐れ畏みて祠を建て招福を祈り祀つたと伝える。



祖霊社

当社歴代の神主並びに氏子総代、神事係又区内発展に尽された故人の遺徳を偲び功績を称え御霊を祀り毎年春分の日に慰霊する為、昭和四十七年九月創建した。



夫婦岩

夫婦の和合安産子授けの岩として古来より信仰篤く、古説によると両岩を撫でて子授け安産を祈り、又嬰兒の初宮詣の時に神酒、洗米、梅干を小皿に入れ折敷にのせてお供えしたあと梅干の皮で鼻をつまみ、しわのよるまで長命で鼻高出世を祈り種は女岩の中央の窪みに納め神酒をそそぎ子孫の繁栄を祈る習慣は今も伝えられている。



五榜の揭示制札

慶応四年大政官が旧幕府の高札を撤去し五枚の制札を建てたがその内参枚が、旧三条街道に当たる山ノ内に遺り歴史的史料として保存している。



御神号御軸

神祇道管領卜部朝臣兼雄 筆



御神刀

銘 伊賀守来金道
刀身二尺二寸八分
反り七分



江戸期に活躍した鍛冶刀匠作である。
初代金道は室町時代に美濃国岐阜県より京に上り鍛冶刀に勤め伊賀守を受領した。

足跡石 座石

親鸞史跡

鎌倉時代初期の僧 親鸞聖人が、諸国伝導布教の節立ち寄つたと伝えられる石。

